

明治大学大学院国際日本学研究科特別講義



日本語ポップカルチャー作品の言語の特徴 -ジブリアニメを例に-

講師: 金水 敏

(大阪大学大学院文学研究科教授、日本語学会会長)

指定討論者: 宮本大人

(明治大学国際日本学部准教授)

内容紹介

フィクションの構造とアーキタイプを分析することで、登場するキャラクターをClass1~3の3種に分類することができるという仮説を提示する。この3分類は、キャラクターが使用する言語とも対応している。このキャラクターの3分類と、フィクションの構造を分析するキャンベル/ヴォグラース式の「ヒーローの旅」の見取り図を紹介し、スタジオジブリ制作のアニメ作品にも適用可能であることを示しつつ、具体的なキャラクターの言語分析を行う。

講師紹介

金水 敏(きんすい さとし)

専門は、日本語学。特に日本語文法の歴史を、西洋言語学の理論を絡めて論じる研究に定評があり、『日本語存在表現の歴史』(2006年、ひつじ書房)で、新村出賞受賞。近年は、現実世界の博士や女性が使うわけではない「そうじゃ」や「そうですわ」など、ステレオタイプの言葉遣いとしての「役割語」の概念を提唱し、言語研究にとどまらず、文化研究、社会研究に広く影響を与えている。現在進行中の「村上春樹翻訳研究プロジェクト」では、キャラクターの言葉が、どのように翻訳されるかについて研究を展開している。編著書に、『ヴァーチャル日本語』(2003年、岩波書店)、『役割語小辞典』(2014年、研究社)、『時代劇・歴史ドラマは台詞で決まる!』(2018年、笠間書院)など。

ゴゴゴゴゴ

2019年12月20日(金)

15時30分~17時20分

明治大学中野キャンパス

516教室

金水敏



役割語研究の展開

「役割語」はもえている

「役割語」研究は広さ深さを増し続ける。
—キャラクター・教育・外国語・ヴァリエーション・ファンタジー—

